

綱 領

- われわれは、社会正義に立脚した良識ある労働運動を通じて吾々の権利を守り、生活の安定と向上をはかる。
- われわれは、常に暴力と独裁を排し自由にして明朗なる民主的労働組合としての健全なる発展を期する。
- われわれは、赤十字の民主化と近代化を促進することによって、その人道的任務の達成に寄与する。



平成24年
5月25日
発行
第217号

発行所
日本赤十字新労働組合連合会
(日赤新労)
東京都港区浜松町2-6-8伸和ビル1F
TEL (03) 3433-3028
FAX (03) 3432-4560
Eメール shinro@shinro.org
ホームページ http://www.shinro.org/
発行責任者 山本 俊一



—平成24年度— 第1回中央委員会開催 今年度ベア、夏期手当等を審議

五月十三日、十四日の両日、東京都港区「チサンホテル浜松町」において全国加盟組より中央委員及びオブザーバー等約九〇名の参加のもと、平成二十四年度第一回中央委員会が開催された。初日には部会及び専門部会が開催され、翌日の中央委員会では、議題である平成二十四年度ベアや夏期手当等について審議が行われた。

一日目は、中央委員会に「今春闘は当初、円高や注視していきたい」として先立ち、部会（組織・教宣、東日本震災・タイの洪水・調査）並びに専門部会（有額回答を示していない。諸要求項目についても前進回答はない状況である。日赤新労は要求を貫徹する。日赤新労は要求を貫徹する。日赤新労は要求を貫徹する。）が開催され、今年度の活動方針や情報交換が行われた。また、午前中には週休二日制推進委員会も開催された。

翌日の中央委員会は出席中央委員二五名、委任状一名で成立が確認された後、議長に鬼塚俊行氏（嘉麻日赤）、副議長に長岡芳男氏（若手血七）、書記に山鹿彰氏（名一日赤）が選出され、議事に入った。

まず、秋友中央執行委員長が挨拶に立ち、次のように述べた。

病院施設においては二年に一度の診療報酬改定が行われ、全体で〇・〇〇四％のプラスと、二期連続のプラス改定となった。しかし本社は、「過去からの赤字による疲弊と今後の将来を見据えて、次のマイナス改定に備えておかなければならない。血液センターにおいてはブロック化に伴う初期投資により、今後は厳しさを増す。」と発言し、黒字経営の施設と言えども財布の紐を固くせざるを得ない状況としている。

今年度の本社交渉は、これまで二回の団体交渉を行ったが、本社は例年の交渉スタンスを変えておらず、これまで通り「世間並みの給与の確保に努め、引き続き世間の賃金改定の動向を

「初心者研修会」はブロック単位で開催。助成金等については例年どおり。〇組合宣伝用ビラの作成・配布、機関紙の発行、ホームページの活用

【調査部】平成二十四年度調査事項を決定。昨年度実施した内容を再見直し、追加項目として「特殊勤務手当の運用」「移動探血における時間外労働の実態」「学士と修士の初任給格差」「永年勤続表彰の運用」等、六項目を加える。

二、専門部会報告

【病院部】高度専門士及び大卒と大学院卒の処遇の取扱い、技師（士）長制度、リハビリ職員の配置、支部採用一般職（一）表職員の人事異動等について意見交換。

【血液センター部】ブロック化による業務及び組合活動への影響、新法人の設立、血液センターの改善事項（要求書項目）等について意見交換。

広域事業運営体制等 意見交換を行う

—血液センター部会—

五月十三日（日）、第一 発な意見交換が行われた。回中央委員会開催に先立、血液センターにおいて、専門部会として血液センター部会が開催され、各都道府県の血液センター

単位による事業運営体制からブロックを単位とする広域的な事業運営体制へ移行され、これまでの都道府県内での献血による血液製剤の確保が広域需要管理されることとなり、センター毎の独立した事業運営も資金が一元管理されることになった。また、血漿分画事業においては、日本赤十字社の血漿分画事業部門と民間企業の完全子会社として新法人が設立され、平成二十四年十月一日から事業が開始される。

- 【第二十四年度中央委員】
- ◎印は代表中央委員、闘争委員を兼ねる
- 【第一ブロック】（三名）
小澤 哲（八戸日赤）調
◎長岡芳男（若手血七）組
井村 健（福島血七）教
 - 【第二ブロック】（八名）
◎押久保清浩（芳賀日赤）調
堀井 敬（芳賀日赤）組
堀中大輔（大田原日赤）調
斎藤知秀（足利日赤）調
関美喜男（原町日赤）組
竹内政則（秦野日赤）教
鈴木こなみ（浜松日赤）教
山岸明人（千葉血七）教
 - 【第三ブロック】（九名）
町田孝文（飯山日赤）調
永岡弘道（名一日赤）組
◎磯石伸治（名一日赤）調
山鹿 彰（名一日赤）教
吉田弘樹（名一日赤）調
 - 【第四ブロック】（二名）
◎阿迦井功（大津日赤）組・教・調
 - 【第五ブロック】（六名）
◎山本敏夫（鳥取日赤）組
西村清孝（鳥取日赤）教
三木伸良（岡山日赤）組
大村祐加（岡山日赤）調
柏 裕輔（三原日赤）教
中宮茂雄（三原日赤）調
 - 【第六ブロック】（二名）
樋口良子（今津日赤）教
◎鬼塚俊行（嘉麻日赤）組・調
- 以上、二十九名

報告事項

- 一、各部報告
- 【組織部】活動報告として、茨城血七内部強化、大津日赤施設訪問、第四ブロック懇談会開催。部会では、組合ホームページの活用、ブロック化による血液センター各単組・施設の状況等を協議。
- 【教宣部】〇研修会の開催について「単組新任役員研修会」六月二十三日・二十四日、場所は水戸市、講師は明治大学法学部講師・松岡二郎氏。
- 【幹部研修会】九月九日又は十日、テーマは「組合員の生活を守る財テクの話」、具体的内容は本部一任。

審議事項

- 一、本年度ベアについて各ブロック会議での審議結果が報告され、今後の交渉については賛成多数で決定。個別に対応していく。
- ②六年制大学の薬学部卒業生への対応について本部より、初任給標準格付基準の一部改正に係る協定書締結に至った経緯の説明があり、昇格基準の見直しについては引き続き協議を継続していくこととして旨の報告があった。
- ③学士と修士の初任給について本社交渉において、「高度専門士は大卒扱いにな」との見解を得たことから、各単組は施設での状況

「初任者研修会」はブロック単位で開催。助成金等については例年どおり。〇組合宣伝用ビラの作成・配布、機関紙の発行、ホームページの活用

【調査部】平成二十四年度調査事項を決定。昨年度実施した内容を再見直し、追加項目として「特殊勤務手当の運用」「移動探血における時間外労働の実態」「学士と修士の初任給格差」「永年勤続表彰の運用」等、六項目を加える。

二、専門部会報告

【病院部】高度専門士及び大卒と大学院卒の処遇の取扱い、技師（士）長制度、リハビリ職員の配置、支部採用一般職（一）表職員の人事異動等について意見交換。

【血液センター部】ブロック化による業務及び組合活動への影響、新法人の設立、血液センターの改善事項（要求書項目）等について意見交換。

【統一要求額】二二割十一律三万円

【統一要求日】本部一任本部は五月二十二日（火）を統一要求日に指定。

三、その他

①高度専門士の処遇の取扱いについて本社交渉において、「高度専門士は大卒扱いにな」との見解を得たことから、各単組は施設での状況

【単組新任役員研修会】六月二十三日・二十四日、場所は水戸市、講師は明治大学法学部講師・松岡二郎氏。

【幹部研修会】九月九日又は十日、テーマは「組合員の生活を守る財テクの話」、具体的内容は本部一任。

【統一要求日】本部一任本部は五月二十二日（火）を統一要求日に指定。

三、その他

①高度専門士の処遇の取扱いについて本社交渉において、「高度専門士は大卒扱いにな」との見解を得たことから、各単組は施設での状況

単組新任役員研修会
6月23日(土)～24日(日)
水戸市「ホテルシーズン」

